

最大13拠点を結んでの効率的なテレビ会議が可能

## 多地点間テレビ会議システム —— 資生堂物流サービス株式会社 様



白熱した会議が効率的に進行されます

資生堂物流サービス株式会社は、化粧品業界最大手メーカー“資生堂”の商品物流部門を全般的に担う会社で、現在は、化粧品で培った多品種少量の物流ノウハウを活かし、幅広い事業展開を推進しています。神奈川県川崎市に本店を置き、物流センターを関東(川崎)と関西(神戸)にそれぞれ1拠点、そして全国10カ所に商品センターを設け、独自のネットワークでスムーズな仕事の流れを生み出します。同社では、より充実した物流体制を構築するべく、定期的に本店で会議を開き、各センターの代表者を集めての情報交換をおこなっていましたが、全国から集まるだけに、その費用および時間のロスがネックになっていました。そこで、テレビ会議システムの採用に踏み切り、しかも本店を含めた13拠点が同時につながる多地点間会議を実現させています。

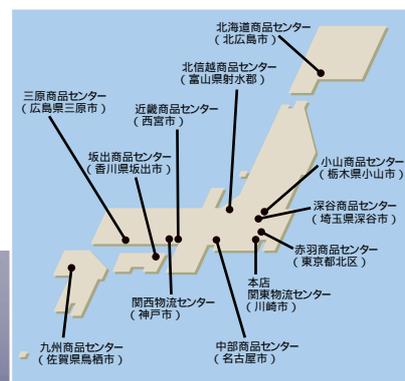
納入先：資生堂物流サービス株式会社

所在地：神奈川県川崎市川崎区南町1-1(本店)

稼働年月：1998年(平成10年)3月

### システムの概要

テレビ会議システムにMCU(多地点会議制御装置)を組み込むことにより、本店と全国各地の12拠点を結ぶ多地点間会議システムを構築し、効率的な会議の進行を実現。さらに出張にかかる費用や時間を削減できます。本店内にテレビ会議の管理部門を設け、日程調整などは、すべてパソコンで制御。定例会議や各種プロジェクトごとの会議などで、月に平均して15～20日間は活用されています。また、本店を除いた、各拠点同士の打ち合わせでもテレビ会議システムを活用できます。



「時間は短く、内容は濃く」。会議の理想形を実現するテレビ会議システム

## お客様の声



資生堂物流サービス株式会社  
 物流技術部 物流技術部  
 物流システムグループ 改善推進グループ  
 部長 隅田 真吉 さま 部長 久保 茂樹 さま  
 (写真左) (写真右)

テレビ会議になってから、会議の進め方や資料のまとめ方が大きく変わりました。以前は資料を当日に配り、内容を確認しながら会議を進めていく形でしたが、テレビ会議でそれをやっていると、時間ももったいないし、こちらの説明が伝わりづらい部分があります。そこで、資料を事前に各担当者に送付することにしたのですが、議題を確実に伝えるために、内容も要点のみを詳しくまとめるようになりました。これによって担当者は、あらかじめ内容を把握した上で会議に臨めるわけです。「時間は短く、内容は濃く」という会議の理想形に近づいてきたと思います。多地点会議の利点は、責任者だけでなく、複数人数が会議に参加できること、それとある拠点から出た意見を、本店との一方通行ではなく、他の拠点でも聞けることです。活発な意見の交換で能率も上がり、有意義な会議をよりスムーズに進行できます。



本店からは12拠点すべてを一目で確認できます

## システムの特長

MCUにより、13地点を同時に結んでの多地点間テレビ会議システムを実現。

通常のテレビ会議システムでは、1対1の対話にしか対応できないため、相手が多い場合はその都度回線を切り替えながらの対話が必要でした。MCU(多地点会議制御装置)は、会議システムに組み込むことにより、全地点で映像と音声がつながり、複数地点でのテレビ会議を実現します。資生堂物流サービス株式会社では、MCUを計4台設置することにより、本店と全国12拠点の計13地点を同時に結んでのテレビ会議をおこなえる体制を構築。会議の運営はすべて本社のパソコンで制御されています。

本店から12拠点を一目で把握でき、効率的に会議を進行可能。本店には、テレビ会議システムの核となるAVコーデック、カメラとともにカラーモニターが4台設置され、うち3台が4分割画面で12拠点を映し出しています。一目で全拠点の様子が把握できるため、効率的に会議を進められます。また、フリートキモードを設定しておけば、残る1台のモニターには、つねに発言している人の顔が映し出され、より臨場感ある討論を演出できます。なお、各拠点には、テレミート100が1台ずつ設置され、4分割画面で任意に選択された4カ所の映像を映し出します。

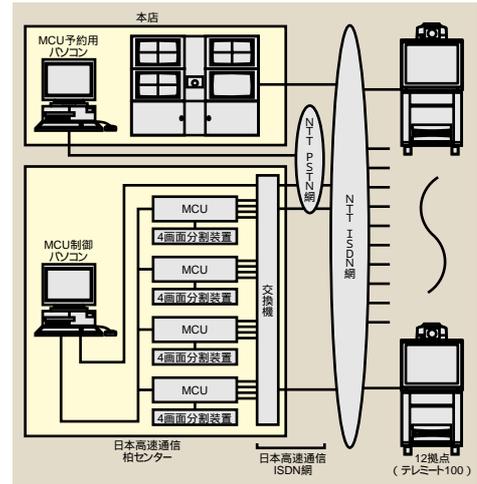


AVコーデックとワイヤレスリモコン



テレビ会議の運営は本店のパソコンで一括制御

## システム図



万一の緊急時には、本店から12拠点へ向けて一斉に情報の伝達が可能。

業務において緊急を要する事態が発生した場合には、本店から各拠点に向けて一斉に指示を送ることが可能です。電話などで1カ所ごとに連絡を取るよりも迅速かつ正確に情報を

伝達でき、素早い対応を促せます。なお、緊急時の一斉同報は、通常の会議中であっても優先されます。

日本高速通信のデータ送受信サービスを採用。

MCUの設置には膨大な回線の引き込みが必要ですが、日本高速通信株式会社と契約し、同社の柏ネットワークセンターに本体を設置することで、その手間とコストを削減。同時にデータ送受信サービスによる通話料金のコストダウンも実現しました。



日本高速通信(柏ネットワークセンター)に設置されたMCU本体



## おもな納入機器

本店		
AVコーデック	WG-AV101	4
ワイヤレスリモコン	WG-CR100	4
3CCDカラーカメラ	WG-V100	1
カラーモニター		4
オーバーヘッドカメラ	WE-MV180	1
MCU予約用パソコン		1式
物流・商品センター		
テレミート100シリーズ		12
オーバーヘッドカメラ	WE-MV180	12
柏ネットワークセンター		
多地点会議制御装置(MCU)	(特注)	1
多地点会議増設ユニット(MCU)	(特注)	3
4画面分割装置	(特注)	4
MCU制御用パソコン		1式